

問1 終末期 end of life (エンドオブライフ) の意味で正しいのはどれか。

1. 大切な人やものを喪失した時に体験する
2. たとえ残された時間が短くとも、一人の子どもがその人生を終えようとしている時期に必要なとされるケアのこと
- ③ 時期を明確に示すものではなく、現在のあらゆる集学的な治療をしても、治癒が望めずやがて死が避けられない状態にあること
4. 慢性状態が長期間にわたって続くこと

問2 子どもの終末期の特徴を全て選べ。

1. 予後を予測できる
2. 疾患は成人以上にさまざまである
- ③ 医療者は病の軌跡を捉え、慎重に終末期の時期を見極めなければならない
- ④ 必要となる終末期のケアは個々の子どもと家族によって異なる

問3 一般的な年齢別の死の捉え方について誤っているものを選べ。

1. 2歳ごろまでは、死ということはわからないが、親の感情の変化を感じたり、周囲の雰囲気がついつもと違うことを感じ取ったりすることができる
2. 3～5歳ごろまでは、死後について「死んだら生き返らない」という非不可逆性の理解は年長になると増えるものの、十分ではない
- ③ 6歳ごろから、死は誰にでも訪れるものであり、人はいつか死ぬという死の普遍性を理解するようになる
4. 12歳以上になると、大人と近い理解をするようになるが、死が自分におきるとは考えていない場合が多い

問4 子どもが終末期にある家族の看護で正しいものを2つ選べ。

- ① 親と話し合う機会をもち、子どもにとってよいことを一緒に考えていく
2. 親の意向や希望よりも子どもの意向や希望を優先するため調整は必要ない
3. 終末期をどこで過ごすかは医療者の価値観で進めてよい
- ④ きょうだいにもケアに参加してもらうよう、親とともに相談してすすめていく

問5 終末期における多職種チームアプローチについて正しいものを2つ選べ。

1. ふだんからのチームの関係性やコミュニケーションは重要ではない
- ② 子ども主体、家族中心として、関連する職種が同じ方向に向かってそれぞれの専門性を発揮する
3. 職種によってそれぞれ違う目標に向かってすすめていく
- ④ 終末期にある子どもと家族を支えるために、院内外での多職種チームによるかかわりが欠かせない